

## 〔 災害支援対策事業 〕 災害支援対策事業報告

近畿作業療法士連絡協議会 災害支援対策チーム

林 辰博(大阪府作業療法士会)

○中原 啓太(兵庫県作業療法士会)

市田 忍(京都府作業療法士会)

木納 潤一(奈良県作業療法士会)

明間 順子(和歌山県作業療法士会)

團孝 圭太(滋賀県作業療法士会)

平成30年2月～平成31年1月の間に日本で震度1以上の地震は、2,206回生じています。世界でもマグニチュード6以上の地震は、日本が全体の20%を占めるほど、地震大国として知られています。昨年度もマグニチュード5以上の地震が島根県西部、大阪府北部、長野県北部でありました。地震に対する備えの重要性は、周知の事実になりつつあります。さらに、昨年度は、西日本豪雨があり、地震だけではなく、水害による甚大な被害がありました。

近畿作業療法士連絡協議会では、近畿での発災時に作業療法士間での連携ができるように、近畿2府4県士会の災害支援対策代表者が平時から情報共有を行っています。今年度においては、各府県士会の災害支援対策事業がどの程度進んでいるかを見える化し、各府県士会が“災害支援に対する指針”を作成することを目標としています。

今回の発表は、平成30年度に兵庫県士会の災害支援対策係がどのような活動を行ったのかを中心に報告します。その活動内容として、兵庫 JRAT (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team) としての活動、西日本豪雨での活動、兵庫県内での災害訓練、日本作業療法士協会主催の災害訓練の結果を報告します。今後は、災害リハビリテーションについて、興味を持っていただけるように広報啓発活動を積極的に行い、発災時に活動できる仲間を増やしていきたいと思っています。